

目的に応じて、複数の情報を比較、関連付けて読み解く力を育む

～国語科（説明文）と総合的な学習の時間をつないで（5年）～

熊本県八代市立八千把小学校 吉本 清久

1 単元について

熊本県では5年生を対象に「水俣に学ぶ肥後っ子教室」が開催されている。本学習は、「環境立県くまもと」づくりの担い手である熊本の子供たちに、水俣病への正しい理解を図り、差別や偏見を許さない心情や態度を育むとともに、環境や環境問題への関心を高め、環境保全や環境問題の解決に意欲的に関わろうとする態度や能力を育成することを目的としている。

この目的を達成するには、複数の資料から情報を得て、比較したり関連付けたりして読む力が必要である。本学習「水俣に学ぶ 2023」は、まず国語科の説明文「言葉の意味が分かること」で、資料を使って筆者の主張を読み取る学習を行い、次に総合的な学習の時間「水俣に学ぶ」で、水俣病問題に関する複数の資料の中から自分に必要な情報を選び、比較したり関連付けたりして読み、水俣病問題について自分の考えを確かにしていくことにした。

2 「水俣に学ぶ 2023」学習計画

（1）資料活用を中心に国語科と総合的な学習の時間の関連を図る

【総合的な学習の時間：水俣に学ぶ】

〈子供の実態〉

○資料から自分が必要とする情報を選ぶことができない。複数の資料を重ねて読んだ経験が少ない。

〈ねらい〉

○「水俣病」について自分の興味関心に応じた課題を選択しそれを探求することができる。

○活動したことや調べたことを文書や新聞、パンフレットにして、分かりやすく伝えることができる。

〈手立て〉

○国語科で資料を重ねながら筆者の主張を読み取った経験を生かして、進んで資料を読むように促す。

【国語】説明文

「言葉の意味が分かること」

〈子供の実態〉

○教材文に抽象的な言葉が多く、理解に差が生じる。

○資料を使い筆者の主張を読み取る経験が少ない。

〈単元のねらい〉

○事実と感想、意見などとの関係を叙述を基に押さえ、文章全体の構成をとらえて要旨を把握することができる。

〈手立て〉

○抽象的な言葉「言葉の広がり、範囲、面」の意味を資料を使って理解する。

○自分の考えに自信が持てないときほど、進んで友達に話しかけるように促す。

〈資料活用に係る子供の実態〉

○関連する資料等を重ねて思考した経験が少ない。難しさを感じるとすぐに諦めてしまう。

○自分で必要な資料を見つけたり、友達と考えを伝え合い深めたりした経験が少ない。

〈手立て〉根気強く・自分の考えを持つ

○自ら必要とする資料・情報を持ち込む。大事な情報を選び、気付きや考えを書き込む。

○進んで友達と考えを伝え合う。相違点について話し合い新たな気付きや考えを得る。

【国語】〈学習後の子供の姿〉

○文章と資料を重ねながら筆者の主張をとらえることができる。

○筆者の意図が資料によく表れていることを理解している。

○自分で資料を使い説明する時、相手を意識して資料の内容や表現型を工夫することができる。

【汎用的な力】

○他教科等で資料を丁寧に読み、相手の意図をとらえている。

○自分が情報発信する際に自分の意図が相手に伝わる資料が吟味している。

【総合的な学習の時間】〈学習後の子供の姿〉

○自分の目的に応じて資料を選んだり複数の資料を重ねて読んだりして、自分の考えを深めている。

○未知なる課題に進んで取り組もうとしている。

(2) 「水俣に学ぶ」の学習計画

国語科「言葉の意味が分かること」	次	時	学習活動	評価の観点
	一	2	○全文を読み、文章構造をとらえる。 ○問い：資料をもとに言葉の「広がり、はんい、面」の意味をとらえよう。筆者の主張をとらえよう。 ゴール：要旨をまとめ伝え合う。	○文章全体の構成をとらえているかの確認。
	二	3	○資料を使って言葉の「広がり、はんい、面」とはどんな意味かとらえる。 ○筆者の主張をとらえる。	○資料の読み方や情報と情報との関係について理解しているかの確認。
	三	3	○要旨のまとめ方を知りまとめる。 ○資料の読み方や要旨のまとめ方について整理する。	○要旨のまとめ方を知り、要旨をまとめているかの確認。
総合「水俣に学ぶ」	一	2	○水俣病のあらましについて 差別発言について	○水俣病が発生した原因や被害に苦しむ人々の様子をとらえている。 ○目的に応じて、複数の資料から情報を得て、比較したり関連付けたりして、自分の考えを深めている。
	二	6	○水俣からのメッセージ ○現地学習「水俣に学ぶ肥後っ子教室（語り部講話、環境学習、資料館・情報センター見学） ○水俣病と差別について考える	
	三	3	○学んだことを文章や新聞、リーフレットにまとめ発信する。	○目的に応じてレイアウトを考えている。 ○自分の考えが相手に伝わるように工夫してまとめている。

3 学習の実際

(1) 国語科 説明文「言葉の意味が分かること」

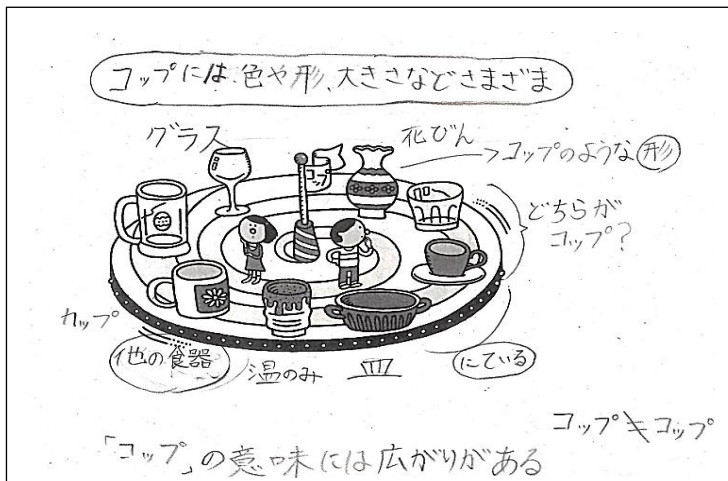
筆者の主張を複数の資料を比較・関連付けして読み取る力の獲得を図った。

〈資料の読み方①〉 叙述に沿って資料に気付きや考えを書き込み、主張に対し理解を深める。

問い：『コップ』の意味には広がりがある」とはどういう意味か。

③ あなたが、小さな子どもに「コップ」の意味を教えるとしたらどうですか。言葉でくわしく説明しても、子どもはその説明に出てくる言葉を知らないかもしれません。「実物を見せればいい。」と思う人もいるでしょう。しかし、コップには、色や形、大きさなど、さまざまなものがあります。持ち手の付いた小さい赤いコップと、持ち手のない大きなガラスのコップ、どちらをコップとして見ればよいのでしょうか。また、コップのような形をしていても、花びんとして作られたものがあるかもしれません。スプーンを入れる皿にも、コップに似たものがありそうです。そう考えると、使い方も理解してもらわなければなりません。

④ ここから分かるように、「コップ」という一つの言葉が指すものの中にも、色や形、大きさ、使い方がさまざまな特徴をもったものがふくまれます。つまり「コップ」の意味には広がりがあるのです。また、その広がりには、「皿」「わん」「湯のみ」「グラス」「カップ」といった他の食器や、「花びん」のような他の似たものを指す言葉との関係で決まってくるのです。



〈資料の読み取りの様子〉

ただ資料をながめている子供がいるので、資料に気付きや考えを書き込むようにした。

子供は、叙述と資料を照らし合わせて詳しく読んでいった。叙述を資料に具体的に書き込んでいくことで「言葉の広がり」を視覚的にイメージでき、資料を使って自分の言葉で説明できるようになった。

〈資料の読み方②〉資料を読み、不明確なところを友達と伝え合い確かにする。
 問い：「言葉の意味のはんいがちがう」とはどういうことか。

⑧ 同じことは、母語ではない言語を学なぶときにも起こります。「朝食にスープを食べました。」これは、アメリカ人の留学生が言った言葉です。日本語では、スープは「飲む」と表現することが多いため、日本語を母語とする人が聞くと、やや不自然に聞こえます。子どもとはちがいで、この留学生は「飲む」という言葉を知らなかったわけではありませぬ。それでは、どうしてこのような表現をしたのでしょうか。

⑨ それは、英語と同じ感覚で「食べる」という言葉を使ったことが原因です。英語では、ものを食べる動作を「eat」という言葉で表しますが、これをスープに対して使うため、「スープを食べる」という表現をしたのでしよう。日本語の「食べる」と、英語の「eat」は似た意味の言葉ですが、意味のはんいがちがうのです。「食べる」と「eat」以外の言葉にも、こういったちがいはあります。

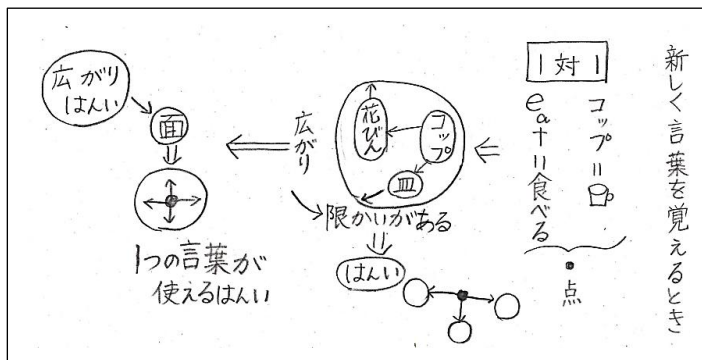


〈資料の読み取りの様子〉

「eat」と「食べる、飲む」の違いを調べた。そして、eat と食べるが同じ意味で使える場合と使えない場合があることをとらえた。その「場合」を筆者は「意味のはんい」と述べ、資料には円の重なりを使って表しているのだと理解した。

〈資料の読み方③〉資料を重ねて筆者の考えを理解する。(再構成して図示する)
 問い：「言葉を点→はんいを理解→面として理解」とはどういうことか。

⑩ わたしたちが新しく言葉を覚えるときには、物や様子、動作と言葉とを、一対一で結び付けてしまいがちです。これは、言葉の意味を「点」として考えているといえます。しかし、言葉の意味には広がりがあり、言葉を適切に使うためには、そのはんいを理解する必要があります。つまり、母語でも外国語でも、言葉を学んでいくときには、言葉の意味を「面」として理解することが大切になります。



筆者の主張「点→はんい→面」を、これまで読んだ資料をもとに再構成して図示することで、理解を深めることにした。子供は、初めこれらの抽象的な言葉に対し「難しい。分からない。」と抵抗を示していたが、資料をもとに理解を深めることができた。

子供の振り返りの中に、「これまで資料を詳しく読んでいなかった。資料を読むことで筆者の考えを理解することができた。資料は大切だ。」「筆者は、5年生に分かるように資料を工夫して作っている。資料を使って読むことは大切だ。」など、資料を読み取ることの大切さを実感する記述があった。

(2) 総合的な学習の時間「水俣に学ぶ」

①「水俣に学ぶ肥後っ子教室」の目的をとらえる

「水俣に学ぶ肥後っ子教室」のきっかけの一つとなった「水俣病に対する差別的発言」に関する新聞記事を読み自分の考えを持つ

「水俣の中学生に差別的発言」
水俣市の中学生が6月上旬、県内の他市の中学校とのサッカーの練習試合中、相手側の生徒から「水俣病、触るな」と差別的な発言を受けていたことが、14日に分かった。
同市の教育委員会などによると、試合の接触プレー中に、一人の生徒が発言したという。試合後、水俣市側の監督からの指摘を受けて、チーム関係者全員がその場で謝罪。……
同校の校長は「今回の出来事は、生徒に対し水俣病の表面的な知識しか伝えられていなかったわれわれ教師の責任」と話し、8月には同校の教諭らが水俣市を訪れ、水俣病の現地学習に取り組み予定。……
（平成二十二年七月十五日 熊本日日新聞より）

〈Aさんの感想〉

この中学生は、サッカーの試合中に、相手にこんな言葉をかけるなんてひどいと思う。

なぜ水俣病を差別するのだろうか。勝手に水俣病をうつる病気だと決めつけて、「水俣病触るな」と発言するのはおかしいと思う。

②Aさんは問いとして「なぜ差別をするのか。差別をなくすために私たちにできることは何か。」を設定した。Aさんは、コロナウイルスが流行しはじめたころに差別が行われたことを思い出した。そこで、水俣病に対する差別とコロナウイルスに対する差別を結びつけて考えていくことにした。問いの解決に向けて必要な資料を重ねて検討した。

〈各資料から分かった差別の実態〉

語り部の方から聞いた話	中学生が書いた作文	コロナで起こった差別
<ul style="list-style-type: none"> ○水俣病はうつると思っ込んでいて、店で買い物はしたくても売ってくれなかった。 ○家に石を投げられた。雨戸を閉めてひっそり暮らした。 ○学校の帰りに、悪口を言われたりからかわれたりするのがいやだったので遠回りして帰っていた。 ○「補助金をもらえてよかね。」といやみを言われた。 	<ul style="list-style-type: none"> ○父が幼いころ、まだ水俣病の原因が究明されておらず、水俣病はうつると言われていた。 ・列車が水俣の駅に着くと、窓を閉め、手で口をおおった人もいた。 ・水俣出身ということで結婚を断られた人や就職試験を受けることさえできなかった人もいた。 ・水俣に住んでいることをかくして、かくれるようにひっそり暮らしていた人もいた。 ・同じ水俣に住む人でさえ奇病と呼び、きよりをおいた。 	<ul style="list-style-type: none"> ○新型コロナウイルスとたまたまかっている看護師さんの夫が職場で「奥さんが仕事をやめないのならあなたが会社をやめて」とひどい言葉を浴びせられた。 ○ある看護師さんは、自分の子供が通う保育園の他の保護者から「保育園に通わせないで」と言われた。 ○感染者の自宅に石が投げ入れられた。 ○宅配業者の配達員が「コロナを運ぶな」と除菌スプレーをかけられた。

〈3つの資料を重ねて分かった差別の実態〉

水俣病に対してもコロナウイルスに対しても、「うつる」からといって差別をしている。水俣病の原因が分かってから今年で67年経つそうだが、私たち人間の心は少しも変わっていないと思う。

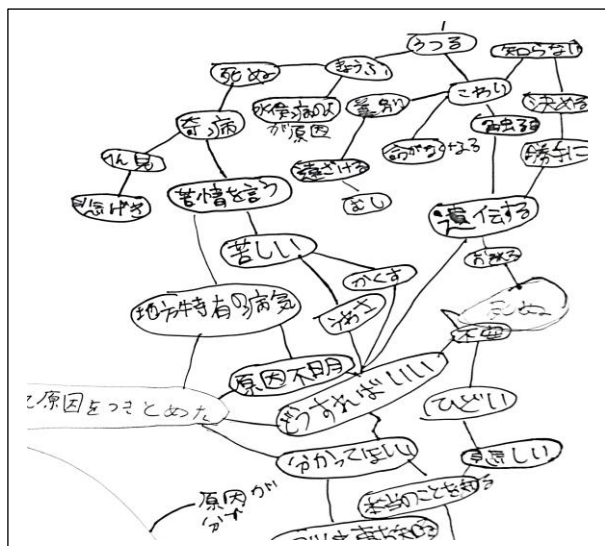
A子さんは、「なぜ、人は差別をするのか。」という問いに対して、さらに関連する記事を収集して検討を重ねた。

- 差別やいじめが生まれる背景には、新型コロナウイルスに対する正しい知識を持たないことから、ひどく不安や恐れを抱いてしまい、過剰な行動に走ってしまう。
- 闘う相手はコロナです。人ではありません。我々みんな、いつ感染してもおかしくありません。感染した人たちを差別するのはまちがっていると思います。
- 人はだれでも病気にかかります。病気にかかるのは、その人のせいではないんです。コロナは確かに恐ろしい病気ですが、私たちが恐れるのはウイルスであって、人ではありません。だから感染した人や、感染していた人を差別してはいけません。
- 私たちが差別や偏見をなくすためにできること、それは、その人、その出来事についてしっかり知り、知ろうと努力すること、正しい知識を深めるために学習することではないかと思えます。



A子さんは、関連する記事を検討し次のように整理した。

- なぜ差別をするのか。
水俣病もコロナウイルスも、病気に対する正しい知識を持たないから、ひどく不安や恐れを抱いてしまい、自分を守ろうと過剰な行動に走ってしまうからだと思う。私もコロナウイルスが発生したころは、「コロナウイルス=死ぬ」と思い込みとても怖かった。そして、予防の仕方が分かり少し安心した。
- 差別をなくすために私たちにできることは何か。
差別を無くすためには、病気のことをしっかり知り、知ろうと努力すること、正しい知識を深めるために学習することが大切だと思う。



③確かな自分の考えを持つために友達と考えを交流し、お互いの考えの共通点や相違点に気づき、考えを深めていった。

友達と交流して、今はインターネット等で簡単に情報を受け取ることができる。しかし、その情報には「うそ」が含まれている場合があるので、すぐに信じてはいけなことが分かった。
「正しい知識を持つ」ことがますます大切だと感じた。

④これまでに得た情報をもとに、Aさんは自分の問い「なぜ差別をするのか。差別をなくすために私たちにできることは何か。」について自分の考えをまとめた。

水俣病やコロナウイルスなどに対する差別をなくすために、私たちにできることは、正しい知識を深めるために学習すること、その出来事についてしっかり知ろうと努力することだと思います。

水俣病は、発生したころには病気の原因が分かっていたそうですが、公式に原因が発表されるまでには時間がかかったそうです。その間に、病気がうつらないか、自分もかかるのではないかとひどくこわがる心が差別につながっていったのだと思います。

コロナウイルスでは、インターネットでたくさんの情報が流れました。その中には、うその情報もあったようです。人々は、情報が本当かうそか分からないまま信じて、感染した人を、その家族を差別していったのだと思います。これも、ひどくこわがる心が差別につながっていったのだと思います。

水俣病やコロナウイルスなどに対する差別をなくすために、私たちにできることは、正しい知識を深めるために学習すること、その出来事についてしっかり知ろうと自分で調べることだと思います。そして、病気になった人が大変な思いをしているということを一人一人が知ること、病気の人には差別発言ではなく、はげます言葉を送ることが大事だと思います。

これからも、水俣病やコロナウイルスのように、人々に不安を感じさせる病気や出来事が起こるかもしれません。そのときは、この学習で考えたことを思い出して行動したいと思います。

4 学習を振り返って

子供は、国語科の説明文の授業で、資料を活用することで一見難しいような事例も理解することができることを実感した。また、筆者は、読み手（自分たち）が分かるように資料を工夫して提示していることも分かった。その後の総合的な学習の時間には、自分から資料を準備したり、その資料に気付きを書き込んだりして、自分から資料と向き合うようになった。

この学びを2学期の国語科「資料を用いた文章の効果を考え、それをいかして書こう」という学習につないでいくことを期待している。この学習では、情報発信者として目的意識と相手意識を大切にしながら「相手に分かりやすく」という視点で資料を吟味し、自分の考えを伝えることができるように支援していきたい。